

研究課題名 (倫理委員会承認番号)	頸動脈ステント留置術後のステント内 protrusion の性状・背景 202406
当院の研究責任者(所属)	蛭子裕輔 (脳神経外科)
他の研究機関及び 各施設の研究責任者	該当なし
本研究の目的	<p>頸部頸動脈狭窄は脳梗塞の原因となり得る病態であり、脳梗塞の予防や再発予防のために頸動脈内膜剝離術 (CEA) や頸動脈ステント留置術 (CAS) が広く施行されている。</p> <p>CAS 後にステント内 protrusion を認める症例が散見され、なかにはそれが原因で脳梗塞を発症する症例もみられる。ステント内 protrusion がなぜできるのか、またその正体は何なのか (プラークか血栓かその他の病態か) は解明されていない。</p> <p>本研究では CAS 後にステント内 protrusion を認めた症例の背景や、protrusion の画像評価での性状や部位を検討し、ステント内 protrusion の成因を明らかにし、それに対する対応 (治療法) を確立することを目的とする。</p>
調査データの該当期間	2016年1月1日 ~ 2025年12月31日
研究の方法 (対象となる方)	<p>頸部頸動脈狭窄症に対して上記期間に当院にて頸動脈ステント留置術を施行した患者</p> <p><b>【除外基準】</b></p> <p>本人、あるいは代諾者から承認の得られない患者 医師が不適切と判断した患者</p>
研究の方法 (使用する情報)	<p>(1) 研究方法</p> <p>研究対象者のうち、CAS後にステント内protrusionを認めた症例をピックアップし、背景因子やステント内protrusionの部位・性状を群別し解析する。</p> <p>(2) 解析方法 (本院で <input type="checkbox"/>実施しない <input checked="" type="checkbox"/>実施する)</p> <p>背景因子の各項目を、ステント内protrusionを認めなかった症例とt検定、Mann-Whitney U検定、Fisher直接検定で比較検討する。</p> <p>ステント内protrusionの性状や部位を群別して傾向を算出する。</p> <p>(3) 評価項目・方法</p> <p>背景因子：年齢、性別、左右、抗血小板凝集能 (Verifynow) 、症候性/非症候性、CAS前のプラーク画像評価 (エコーによるプラーク輝度・潰瘍有無・PSV、MRI BB/TOFによるプラーク信号、プラークのCT値、狭窄度) 、CAS時の手法 (ステント種類、pre/post PTAの有無など)</p> <p>ステント内protrusionの性状・部位：エコーやCTAでのステント内protrusionの性状評価 (ステント内のどこにprotrusionしたか、また</p>

	<p>元々のプラークとの位置関係など)、CASからステント内protrusion発覚までの期間(日数)をまとめる。</p> <p>これらの因子を上記(2)の解析方法で解析する。症例数が多ければ多変量解析も行う。</p>
資料・情報の他機関への提供	該当なし
個人情報の取り扱い	データの解析および研究成果の発表・公表においては、個人を特定できる形としない。
本研究の資金源 (利益相反)	なし
お問い合わせ先	翠清会梶川病院 脳神経外科 蛭子裕輔
備考	